

第46号

発行所 茨城県筑西市下山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
TEL (0296) 24-6344(代)
FAX (0296) 25-4673
編集兼発行責任者 仙波聡美
印刷所 戸頃印刷所

紫西会報

紫西同窓会水戸支部 総会に出席して

紫西同窓会長 林 廣明
(四十一回卒)



下館紫西同窓会の会長に推挙頂きまして、約一年が経過致しました。

その間、平成二十七年三月の卒業証書授与式及び同年四月の入学式が無事終了しますと、風薫る五月に、平成二十七年度PTA新旧役員歓迎会が開催されました。

つづくと、春は別離と出会いの季節であることを実感致しました。

駒教頭先生そして飯島先生の三名が、水戸支部総会に出席することになりました。あいにく、石川校長先生は当日、出張で総会に出席出来ないとのこと、とても心残りのようでした。

私と飯島先生は、下館駅前で待合わせ、午後四時の電車で水戸に向かい、途中、岩瀬駅から生駒教頭先生が私たちに合流しました。

私は水戸行き電車で乗車するのは数十年前振りのことで、車窓からの風景は昔と少しも

変わらず、筑波山を右手に、電車はのどかな田園地帯を水戸へと走りました。

突然、車内の静けさを破り、ドカドカと高校生たちが乗車してきました。それからの車内は女子高生たちの賑やかな会話が花が咲いたようでした。口を尖らせて喋る女子、髪を撫でながら頷く女子、高笑いする女子、みんな生き生きとした顔で高校生活を楽しんでるようでした。

車内はいつの間にか静かになり、電車は水戸駅に到着しました。私達は水戸駅南口に降り、南口を出ますとキラキラと輝くばかりの夜景が私達を出迎えてくれました。私は、水戸南口に降り立ったのは初めての経験でしたので、都会的な夜景に驚き、茨城もまだ捨てたものではないと、少し鼻が高くなりました。

駅から歩いて五分で総会会場のホテルに到着し、早速受付を済ませて役員の方にご挨拶をしました。

水戸支部総会に三十四名の会員が出席しましたが、二十九回卒業の相澤汎会長、三十四回卒業の野村満副会長をはじめとして、八十五回卒業の

若い会員まで、各年代の卒業生が出席するとても活気溢れる総会となりました。

総会は定刻の午後六時三十分、相澤会長の挨拶で始まり、そして全員が起立し校歌斉唱です。

筑波の西に緑野あり
鬼怒の流れに濯はれて
花印はしく咲くところ
響えて高しわが母校
.....

卒業年度にかかわらず全員が声高らかに校歌を歌い上げると、年月を超えて、今の会場が高校時代にそっくりタイムスリップしたような錯覚に陥ったような気がしてなりませんでした。

その後、生駒教頭先生から、出席者全員に母校下館第一高等学校の資料が配布され、その説明がありました。カナダバンクーバーのシアコム高校との交流(かけはしプロジェクト)については、特に熱を入れて説明されました。

そして、乾杯! 盃を重ねる会員の皆さんは、実に楽しそうにお酒を酌み交わしながら、母校、恩師、同級生、下

館の友人、仕事等々の話に盛り上がりました。

同窓会を中心に、いろいろな職業の人達が、年代を超えて集い、その会員同志の熱い気持の繋がりに、私は胸を打たれる思いでした。

楽しい時間が経過し、いつの間にか閉会の時間になりました。

別離を惜しむかのように、全員は三々五々と会場を後にしました。

私達も役員の方々にお礼をし、水戸駅へと向かいました。私は、水戸支部総会に出席し、改めて、同窓会会員の同窓会に対する強い思い入れを認識致しました。

最後になりましたが、下館第一高等学校紫西同窓会水戸支部の皆様、素晴らしい総会に出席出来たことを、心より感謝申し上げます。



ごあいさつ

校長 石川

弘



紫西同窓会の皆様には、母校の教育の振興にあたり、平素から温かいご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。本校に赴任してから早二年目が過ぎ去ろうとしていますが、この間、前会長の中山喜一郎様、現会長の林廣明様をはじめ、同窓会の皆様から心温まるご厚情を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、現在は教育改革・学校改革の時代です。少子化が急速に進行していく中で、学校教育の質が問われると共に、学校の一層の魅力づくりが急務となっております。そのようなか、本校は、今年度より県教委から「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」重点校に指定され、『紫西グローバルチャレンジ事業』に取り組んでいます。急速な国際化への対応や故郷創生をテーマに、将来地域貢献や国際貢献ができるグローバル（Global+Local）リーダーの育成を目指しています。カナダ・バンクーバーでの語学研修を中心とする「国際交流事業」、難関大学合格を目指す「トップランナー育成事業」、キャリア意識の高揚を図る

「アレ・カレッジ事業」や「アレ・キャリア事業」が大きな柱になっています。特に、「国際交流事業」では、夏季休業中にカナダ・バンクーバーにおいて生徒海外派遣プログラムを実施しました。一・二年生四名が参加し、一週間の日程でホームステイをしながら、語学学校での英語研修や日本国総領事への表敬訪問、ブリティッシュコロンビア大学での学生との交流、各種のアクティビティーやフィールドワーク等を体験してきました。また、滞在中には在バンクーバー日本国総領事の岡田誠司様本校51回卒から総領事官邸での夕食会にお招きいただき、生徒たちにとりまして生涯忘れることのない思い出となりました。この場をお借り致しまして、心より御礼申し上げます。なお、『紫西グローバルチャレンジ事業』の取り組み状況につきましては、ホームページで詳しく公開しておりますので、是非ご覧下さい。

次に、学校の現況についてご報告いたします。お陰様で生徒たちは「文武両道」を motto に、輝かしい伝統を受け継ぎ、日々勉学に部活動に学校行事にと頑張っています。特に学習・進路面では、AC（アドバンスト・クラス）制度一期生であった昨年度の卒業生は、秋田大医学部医学科や東北大・大阪大など、難関校をはじめとする国公立大学に一五五名過去最多が合格するなど、大変素晴らしい成果を残しました。茨城大や筑波大、県立医療大など、地元国公立大学にも多くの合格者を出しています。最近の本校生の特徴は、センター試験後も最後の最後まで諦めることなく頑張り抜き、栄冠を勝ち取る生徒が多いことです。辛く苦しい受験勉強の中で、支援する教員との間に固い信頼関係が築き上げられているからこそだと考えます。こうした雰囲気は、是非とも後輩に伝え、AC制度と共に学習面での良き伝統にしていきたいと考えています。

一方、部活動では、運動部・文化部共に、限られた時間を有効活用し成果を上げています。特にライフル射撃部は、二年生の近藤圭市君が、全国選手権のエアライフル立射で第七位に入賞したのをはじめ、男女ともに国体や関東大会に出場しました。また、弓道部女子が団体で、水泳部男子が個人二種目で関東大会出場を果たしました。さらには、放送部が滋賀県で開催された全国高等学校総合文化祭（びわこ総文）にアナウンス部門で出場すると共に、全国高校放送コンテスト（NHK杯）には、三部門（アナウンス部門・朗読部門・ラジオドラマ制作部門）で、出場を果たしました。その他多くの部が県大会に出場し、剣道部の男女とバドミントン部の男子が、それぞれ団体でベスト8に入りました。加えて、地域のアームレスリング道場で活動している三年生の松本誠由君が、世界選手権に出場する素晴らしい活躍もありました。今後も本校の伝統であります「文武両道」の精神を大切にしながら、部活動の更なる活性化に努めていきたいと考えております。

また、七曜祭文化祭やクラスマッチ等の学校行事では、有志による執行部本部実行委員会が本校伝統の組織として定着し、生徒会とタッグを組んで年々活性化が図られています。計画段階から一般生徒の声を吸い上げ、入念な計画案を作成して準備に入るため、雰囲気一段と盛り上がりつつあります。こうした行事を通して、生徒の企画力やリーダーシップを育むと共に、生徒同士が互いに支え合い高め合っていく環境を築いていきたいと考えています。そして、全員で下館一高を盛り上げ、明るく元気で清々しい学校にしたいと思っています。

最後になりましたが、私も教職員は、下館一高の輝きが一層増すよう、全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



〔総領事官邸での記念撮影〕

同窓会便り

紫西同窓会水戸支部総会

開催について

相澤 汎

(第二十九回卒)

今回、母校より生駒教頭先生、林 同窓会会長、飯島先生のご臨席を頂き、水戸駅隣接のホテルレイクビューにて、去る十一月七日に二年振りで開催が実現出来ました。

当会会員の特徴として、水戸地区に定住する「地域会員」と、水戸地区の職場に勤務する「職場会員」で構成されています。私が定住した三十年前は、地域会員も若く参加者も多数おり、とても賑やかな会でありました。その後高齢化が進み、私が今回参加者の最年長となりました。今回の参加者は三十六名で、二〇二四年はこの程度の参加者数で推移しています。

紫西会報

職場会員も開催時期によっては、かなりの制約があつて参加が困難の時もあります。記録では、過去には八十名が

超えた時もありました。今後の課題として、一人が一人に参加しようの「声掛け」の運動を展開し、また参加したい企画が必要と考えています。



筑波銀行館高鬼怒商会総会開催報告

筑波銀行館高鬼怒商会会長

須藤 義定

(第五十二回卒)

我々、筑波銀行の役職員のうち下館第一高等学校ならびに鬼怒商業高等学校の卒業生は、筑波銀行館高鬼怒商会(会長・須藤義定、昭和五十一年三月卒)を結成しており

ます。現在、会員数は約八十名であり、銀行内の他のOB会と比べても大人数の組織となっております。当会の発足時期については、正確な記録が残っておりませんが、昭和四十年代に旧関東銀行(※)内において活動が始まったと思われ、約半世紀の歴史があります。(※)筑波銀行は、

旧関東銀行と旧つくば銀行による関東つくば銀行と茨城銀行が合併し、平成二十二年三月に誕生した銀行です(代表取締役副頭取・植木誠、昭和四十八年三月卒、常務取締役・木城洋、昭和五十年三月卒)。

現在の主な活動は、年一回の総会です。今年度は、九月二十六日に栃木県小山市の小山パレスホテル内で開催しており、両校の同窓会事務局からご来賓として野澤義男先生(下館一高)、塚田博文先生(鬼怒商業高)をお招きしました。当日は、各自、旧交を温めるとともに、懐かしい昔話に花を咲かせ、下館一高が昭和三十四年に甲子園出場した時の秘話が飛び出すなど、大いに盛り上がりました。

当会では、下館紫西同窓会及び母校の発展のお役に立て

るよう、微力ながらご協力していきたい所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



平成二十一年度卒

同窓会

平成二十一年度卒業生の同窓会が平成二十七年十二月三十日に筑西市玉戸のダイヤモンドホールで行われました。



新任の先生よりメッセージ

下館一高に赴任して

植田 幹夫



今年四月、伝統ある下館一

高に赴任を命ぜられ着任しました。早々、生徒達を見直すと驚いたことは、凛とした姿ときちんとした身だしなみで挨拶する優しい笑顔、自然に気持ちが出るようになりました。

改めてすばらしい高校に着任できたことを感じ、ますます緊張を高めることとなりました。

入学式では、またもカルチャーショックのようなものを受けました。新入生の見事な行動、保護者から伝わってくる期待感、吹奏楽部や生徒会役員の凛々しい姿、ここでも下館一高スピリッツの一面を覗いたような気がしました。

さて、私(事務室)の使命

は生徒により良い施設設備等を提供し、生徒の教育環境(水準)を向上するということです。

本校生徒が笑顔で楽しく高校生活を送り、学習に、部活動に打ち込める環境づくりにあると考えています。本校生の自己実現の一助となるべく、業務に当たりたいと存じます。

今日、下館一高紫西同窓会会員の皆様方は、各分野にその名声を知らしめ、その活躍ぶりは社会から賞賛されていることと推察いたします。

下館一高生は、同窓生の背中を仰ぎながら、学習や部活に力を入れるだけでなく国際交流にも意欲を注ぎ、外国語に積極的に取り組み、また、国内外での語学研修に参加するなど、「世界で活躍できる人材」を目指して行動しています。

本会活動が、会員の活動の活性化はもとより、本校生徒一人ひとりのより充実した活動や自己実現に繋がることを期待し、また、将来、下館一

高での三年間が生徒達の良き思い出となるよう「支援をお願いいたします」。

本会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

下館一高に赴任して

栗野 尚子



こんにちは。四月に下館一

高に参りました数学科の栗野

です。栗ではなく栗。「濡れ

手で栗(の)」の栗です。と

言っても苦労せずに多くの利

益を・・・なんて思っている

わけではありません。あ、少

しはあります。四月一日、学

校到着が早過ぎて少し戻り、

ウエルシアでお手洗いをお借

りしたあの日、から八ヶ月。

私は生徒たちから元気なパワー

と刺激をもらう毎日です。授

業や部活動、これまでの様々

な学校行事等において頑張っ

ている姿はたのしく、生徒

たちの能力は無限大だと感じ

ます。皆さんひとりひとりの

成長がとても楽しみですであり、

私はそれをしっかりサポートしなければならぬと切に思っています。また、礼儀も正しくとても感じがよいですね。校長先生が集会でお話されたように、館一生には「知性と元

気とやる気」があります。そう、とにかく一生懸命やることです。良い結果をすぐに期待してはいけません。言い訳

もいけません。うまくいかない、とか失敗をたくさん経験

する。無駄だとか、意味ねー

なんて考えずに、すべてが学

び、自分に必要な学び、それ

こそこれからの自分の生きる

力になると思つて逃げないで

ください。大丈夫。生徒たち

への熱意、思い、責任感

を持った先生方がそばにいま

す。私も先生方にいろいろ教

えていただき支えしてもらって

います。私も早く先生方に追

いつけますよう努力して参り

ます。さて、ここだけの話で

すが、先日人間ドックの検査

で血管年齢二十代と言われま

した。「まじっすかー!」とか

なり喜んでいました。脳年齢も

二十代を目指し頑張ります。

みなさん、ますます素敵な魅

力ある人へ人間力アップの

ために、この下館一高で一緒

に学びましょう。どうぞよろしくお願いたします。

最後になりますが、今年九月の常総市の水害の際には多くの方々にご心配をおかけし

ました。PTAや生徒会からもお見舞いをいただきありが

とうございました。そして何

よりボランティアの生徒のみ

なさん、先生方に深く感謝申

上げます。

下館一高に赴任して

海老澤 淳子



「筑波山は、下館から見

るのが一番美しいんだよ。」と

いつ、だれに言われたのかは

覚えていません。そのときか

ら、私のなかで下館は、筑波

山が一番美しく見える場所にな

りました。古河からの通勤

途中では、鬼怒川大橋から見

える筑波山と田んぼの景色は

美しく、日々色を変えるそれ

を見るのが毎朝の楽しみです。

下妻で育った私は、子供のころから買い物や映画、部活の

試合等々、度々、下館を訪れてはいました。通勤距離はだいぶありますが、とても懐かしい気持ちで毎日勤務しています。

また、下館一高はライバル高。高校時代、模試が終わるたびに担任の先生が、「また館一に負けました。なんで勝てないのかな。」とよく言われました。勝ち負けが何で決まるかはわかりませんでした。が、下館一高は成績が優秀な生徒がたくさんいる学校だということとは嫌というほどわかりました。

将来、社会リーダーとなつて、世界で活躍していく生徒たちと関わることに幸せを感じるとともに、大切な時期に教師として関わる責任も感じています。知識を増やしたり、学力を伸ばすだけでなく、人としての成長をする高校生に限られた時間を無駄にせずに日々成長してほしいと思います。期待して投げかければ答えてくれる生徒たちです。私もできることを精いっぱいやっていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

これまでを振り返って

野村あかね



昨年「下館一高に決まりました。」と校長から告げられたとき、私は思わず「えっ？ 私

でいいんですか？」と叫んでいました。あまりにも衝撃を受けた様子だったため、校長も「あなたみたいな人初めてですよ。普通二つ返事で承諾です。」と笑いがおちっていました。挙げ句、私は「一日考えさせてください。」などという失礼な返答をし、帰宅しました。なぜ、私が驚いたかという、幼子を三人抱え、看護休暇を取得し続けており、戦力外と感じていたからでした。

報 会 西 紫

帰宅し、夫に、「今日、次の学校、館一って言われたんだけど……。」と言つと「行けばいいよ。」とこもなげに言われしました。話しているうちに「行ってみるかー」と覚悟を決めました。

そして、現在、私はこの人事をしていただいたことに心からの感謝を禁じ得ません。真剣に質問してくれる人達と一緒に学ぶことができる喜びを、毎日味わわせていただいているからです。大学生の時、採用通知をいただき、県外者の私はうれしきで、「この県に尽くそう。」と思ったことを思い出しました。

もともと、言葉や表現することの楽しさを私に教えてくれたのは、亡くなった祖母でした。「女に学問はいらない。」と言ひ、自らは甥の養育のために小学校を中退した人でした。にもかかわらず、ずいぶん様々なことわざを知っていました。あるときは「おまえは捕らぬ狸だなあ。」などと私の発言に大笑いし、「なに？ 捕らぬ狸って。」と言つと説明してくれました。そのようなやりとりを日常繰り返す中で、私は言葉の魅力に引き込まれていきました。「女に学問は……。」と言つていた人の影響で国語教師になるなんて、人生とは皮肉なものです。

学ぶことは時に苦しいことでもあります。自分が無能に感じる日もあるでしょう。けれど、

でも、その先には「わかった。」という達成感があるのも、事実です。私が教師として皆さんに伝えられることは、わずかなことかもしれませんが、ただいえるのは、「国語って楽しいよ！」ということだけです。祖母が私に無意識に教えてくれたように、無意識に伝わればよいと思います。そのためには、自分が楽しんで授業をしていることが大切です。こちらはまだ学びの途中です。ともに学んで行きましょう。

下館一高に赴任して

市村 太一



四月に赴任し、早いもので八月が過ぎました。初めは戸惑う部分も多くありましたが、先生方からのご助言、そして何より、行動力のある生徒達のお陰で、少しずつではありますが、下館一高の生活にも慣れてきたように感じます。原稿依頼を受け、改めて

これまでの時間を振り返ってみましたが、この八月の月中で、「館高」の空気というものを強く感じた瞬間が二度ありました。

最初は離任式です。体育館を包み込むような温かな空気、その中で初めて聞いた校歌。二階席にいた私の場所だけが違う空気に支配されているような、孤独感にも似た思いを感じたものでした。早くこの空気の中に入りたい、そう思い毎日使用するノートに校歌の歌詞を貼り、それを覚えることからスタートしたことを、少し懐かしく思います。

二度目は七曜祭。計画から準備、当日の発表等、生徒が主体となり本当に素晴らしいものでした。中でも私が一番驚いたのは、一般公開後の後片付けです。設定時間が少し短いのでは、という私の心配をよそに、ここでも生徒達が自然な流れの中で役割分担し、それを見事なまでにやり取りしました。

本校は間もなく創立百周年を迎える伝統校です。私が感じたこの館高の「空気」は、ここ数年で出来上がったものではなく、在学中に勉強や運動に励み、現在は社会で活躍されている卒業生と、そんな生徒達と向き合つて頑張つてこられた先生方、そして地域の皆さまのご支援の中で、長い時間をかけて作られたものだと思います。そしてこれこそが伝統なのだとは感じています。このような素晴らしい学校で、生徒達と共に学べることに喜びと責任を感じながら、私自身も成長し、少しでもお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

下館一高に赴任して

マクアリスタ未央



下館一高は素晴らしい学校です。朝の通勤時、学校の手前の横断歩道を車を止める、生徒は必ず会釈をして横断します。廊下ですれ違つと「おはようございます」「こんにちは」と爽やかな挨拶が行き交います。授業中は一同が真剣な眼差しをこちらに向け、

教師の言葉に耳を傾けます。生徒はよく学び、よく笑い、よく行動し、友と師を敬い尊重します。下館一高の素晴らしいところは、間違いなくその生徒にあり、そしてまたその生徒を支える保護者の方々、先生方、地域の方々にあると思います。

高校時代はとても短く、しかしとても濃い三年間です。自分自身の高校生活を思い返すと誇れることよりも反省すべきことの方が多いですが、それでもやはりあの頃に覚えた感動、培った友情、乗り越えた壁のひとつひとつが、今の自分の血肉となっていることに間違いはありません。四月から初任者として下館一高に赴任し、高校の教員として初めての一年間を過ごしました。中学校との違いに戸惑いながらも懸命に日々を過ごす一年生。部活動や学校行事などでリーダーの頭角を現し始めた二年生。大学受験という大きな壁に挑み、大人としての第二歩を踏み出した三年生。そんな生徒の姿を見ると、高校時代の自分や級友たちを思い出します。生徒が過ごす高校時代という「今」

は、二度と帰ってこない時間です。私も教員として掛け替えのないこの毎日を生徒とともに大切に過ごし、彼らが大きな未来へと羽ばたくためのサポートができたかと思えます。

初任者として下館一高に来ることができたのは大変嬉しいことです。十年後や二十年後に振り返ったとき、きっと下館一高は私にとってのもう一つの「母校」になっていることと思います。伝統ある下館一高で勤務できることを感謝し、日々精一杯力を尽くしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

やがてのある職場に感謝して

岡本 好和



再任用で三年目になります。が、常総線沿いの進学校、下妻一、水海道一、そしてこの下館一に勤務できることを、大変光栄に思っております。最初は週三日の非常勤勤務で、一、二年生の担当でしたが、

急な教員の異動があったため六月より常勤となり、主に三年生の授業を担当することになりました。最初は戸惑いもありましたが、能力不足を悩みつつも楽しく充実した毎日を送っております。

私の下館一との出会いは、バスケットの顧問であった新米教師の二十代にさかのぼります。正門を抜けると、大鷲が両翼を広げたようなV字型の三階建ての本館が現れ、広大なグラウンドでは部活動の生徒の元気な声が響き渡り、お腹をすかせた部員達が集まる購買室は夕方まで開いていて驚きました。当時の男子バスケット部（女子はまだなし）は、自分の仕事を犠牲にするほど熱心なOBのコーチと共に東西では敵無しで、県でも三位に入るほどの強豪でした。また学習面では、文科系の科目が強く、今とはシステムが違ふとはいえ、次大には毎年百名近く合格し、こちらもトップの水戸二には及ばないまでも、県で三番目あたりだったと記憶しております。生徒はどこか都会的な雰囲気がありましたが、その反面目立つ生徒も見受けられました。そんな印象を少し持って赴任しましたが、みんな素朴で礼儀正しく、あらゆる面で茨城を代表する高校にふさわしいと感じております。優秀な三年生の入試結果がとても楽しみでした。

さて、明治初期まで東西の中心地は下妻でした。しかし明治中期に水戸線が開通すると共に、下館は東西一の商業都市へと発展しました。その由緒ある下館の名も、あの東京警視庁を思わせるような威風堂々とした、まさに商都下館のシンボルのような旧本館も消えたのは寂しいことです。それでも昭和六年創建の屋内体操場及武道場はまだ健在です。ので、未永く存続できることを願っております。

下館一高に赴任して

世木田和也



下館一高への赴任が決まった昨年度の三月、肌寒い中書類を受け取りに来たとき、胸の中にあっただのは前任校を離れる寂しさだったと記憶しています。この想いはいつなくなるのか、不安に思っていました。

下館の桜並木に迎えられ初出勤した四月、その不安はずぐに払しょくされることとなりました。学校に入ると「おはようございます」という元気な声が聞こえてきました。まだ名も知らないどころか、教員なのかわからない私に對して元気な挨拶をくれたことに大きな感動を覚え、これからしっかりと下館一高のために頑張ろうと思えました。

実際の生活していくと、何か大きなものを運んでいけば「手伝いましょうか？」と声をかけてくれ、プロジェクトの準備をしていけば配線を手伝ってくれる生徒がたくさんいます。こんな「他者への気配り」が普通にできることに、ただただ感服させられる日々です。私自身の高校時代を思い返すと、頭が固く、視野が狭い、言われたことはきかないが、言われたことはきかんとやる。そんな程度の高校生であり、昔の自分を恥ずかしく思うほどです。高校での生活は、自分の目標に向かってしっかりと努力することが求められます。十年後、自分の納得できる未来をつかむために、今やるべきことは何かを考え、一瞬を大事に過ごしてほしいと思います。そして、そのサポートをしっかりとりたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

下館一高に赴任して

小沼ちひろ

(第八十二回卒)



高校を卒業してから、早いもので十年。まさか母校の教壇に立つ日がくるなんて、夢にも思いませんでした。六月から下館一高に勤務すると決まり、途中から入るということもあって、初めは緊張と不安でいっぱいでした。しかし、下館一高の先生方の優しきや温かさ、生徒たちの明るさや素直さ、そして気軽に話しかけてくれる人懐っこさが、私の不安をかき消してくれました。今は毎日が楽しく、どうしたらわかりやすい授業を行うことができるかと奮闘しながら、日々を楽しく過ごさせていきたいと思います。本当にありがとうございます。

私がずっと大切に思っていることは、「いつも笑顔」でいることです。「笑う門には福来たる」と言いますが、笑顔は自分を前向きにしてくれたり、周囲の雰囲気明るくすることができると、素晴らしい力をたくさん持っています。辛いときも、苦しいときも、どんなときでも笑顔で頑張る。そんな精神力の強さは受験でも大切になってくると思います。勿論、勉強は大切です。勉強から学ぶ大切なことはたくさんあります。しかし、勉強を通して頭を鍛えるのと同時に、心もたくましく成長することで、より各々の進路で輝いてほしいと思っています。

高校生活の三年間はあっという間です。皆さんが毎日を楽しく、笑顔であふれた充実した日々を過ごすことができるように、精一杯尽力させていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願いします。

二度目の赴任

渡邊 理男



初めましての方も、お久しぶりの方も、こんにちは。今年度の四月より非常勤講師として、下館一高に赴任をした渡邊といたします。よろしくお願ひします。

私は一昨年、この下館一高に常勤講師として一年間勤めていました。変わらず熱心に指導する先生方と、真剣に取り組む生徒たちの姿を見てとても嬉しくなりました。自分も微弱ながら皆さんのお役に立てるよう頑張っていこうと思います。

紫西会報

生徒の皆さん、皆さんはたくさんやる事があって大変でしょう。勉強、部活、友達恋愛、色々あって自分は大変だと思ふかもしれません。しかし、大人になるともっと大変です。大人になってから、今の悩みを思い返したときに、なんであんなに悩んでいたのだらうかと思ふことがほとんど

です。でも、だからと言って今の悩みを適当に投げてしまふこともおかしいことです。今できる最善をつくしましょう。どのような結果になっても必ずプラスになることが残るはず。適当に出た結果は自分に何も残してはくれません。高校の三年間とはとても短いものです。その間に皆さんが自分に多くのプラスを残せることを望みます。

四度目の挑戦

高橋 好文

(第四十二回卒)



いま目の前には、七年前の、十数年前の、三十数年前の、五十年前の自分と何ら変わる事のない高校生がいます。確かに、社会環境は大きく変わりましたが、内なる世界、意識の源は今も昔もそれ程変わらず、知を磨き、部活動に汗を流し、友を求め、先に見える人生に思いをはせる一高生がいます。自分を大切にして、精進してください。先生

方も先輩たちも皆さんを見守り、応援しています。ところで、我が人生は「こうしておけば、ああしておけば……」と思うことばかりです。何度も転びそうになり、迷い悩んだことも多々ありました。その度に読んだ本があります。その一節を参考までに紹介します。

「自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広いときもある。狭いときもある。登りもあれば下りもある。坦々としたときもあれば、かきわけかきわけ汗するときもある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまるときもある。慰めを求めたくなるときもある。しかし、所詮はこの道しかないのではない。か。諦めろというのではない。いま歩んでいるこの道。いま歩んでいるこの道。ともかくも、この道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられている、

かけがえのないこの道ではないか。他人の道に心を奪われ、思案にくれてたちずくんではない。道は少しも開けない。道を開くためには、まず歩まなければならない。心を定め懸命に歩まなければならない。それがたとえ遠い道のようになっても、休まず歩む姿からは、必ず新たな道が開けてくる。深い喜びも生まれてくる。」(松下幸之助著「道をひろく」より)

下館一高に赴任して

下条 茂樹

(第四十九回卒)



四月に下館一高に赴任して早いもので、もう九か月が過ぎ去ろうとしています。さすがに下館一高生は、学習・生活面共に優れ、あらゆる場面で自主・自律的な活動や行動が見られます。それはひとりひとりが将来のビジョンや夢を持っているからだと思えます。

なくてはならないことがたくさんあるでしょう。悩みも多いと思います。しかし、人は悩み、苦しみ、もがきながら何かを掴む、その何かが最も大切なものです。この大切な三年間、自分自身を鍛え抜き、そしてひとりひとりの輝きながらこのアカデミックな学び舎を巣立っていったほしいと強く願ひます。

下館一高に赴任して

堤 美和子



今年度四月に茨城県庁土木部の出先機関、茨城県筑西土木事務所から赴任して参りました堤と申します。よろしくお願ひいたします。さて、土木事務所といいますが、皆さんは何を思い浮かべられるでしょうか。そもそも何なのかわからない、という方がほとんどかと思ひます。土木事務所の業務内容を簡単にまとめると、管轄する道路橋梁・河川等の整備及び維持管理、それに伴う用地の取得、

管轄する市町村に本店を置く建設業者への建設業法に基づく許可を行っています。私が担当していた業務は最後に挙げた建設業法に基づく許可です。入庁以降その業務に三年間従事し、初めての異動がこの下館一高となりました。下館一高へ赴任するまでは、学校はきつことも静かで生徒さんも大人しいのだらうな、というイメージでしたが、赴任して早々に良い意味でイメージが崩れました。生徒さんは元気に挨拶してくれまし、休み時間になると楽しげな話し声や笑い声が聞こえてきます。また、文化祭などの行事にも積極的に取り組んでいる姿が事務室からでも見えました。自分が高校を卒業して四年、自分にもこんなにきらきらと輝いていた時期があったのだらうかと思ふ今日この頃です。

私の業務の性質上、生徒の皆さんと直接関わる機会は少ないですが、下館一高での学校生活が充実したものになるよう微力ながらも手伝いさせていただきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

進路指導の現状

進路指導部長 福井 勲



【平成二十七年入試概況】

二十七年年度のセンター試験は参加大学が六大学増加し八四九校と過去最多であったのに対し、志願者は五五九一三二人で、昨年に比べ一五四〇人減少しました。特に既卒生は約一割減少し、現役中心の入試となりました。また、数学と理科の新課程入試初年度とともに、旧課程履修者に対する経過措置もあり、大変複雑な入試となりました。選択科目により試験会場が変わるため、生徒の試験会場も別れてしまい、各高校ともその対応に追われました。出題された問題については、数学と理科では新課程で新しく加わった分野からの出題が見られ、またそれ以外の教科においても新課程を意識した出題が見られました。科目別の平均点

では、国語が前年差プラス二〇・六点と大きくアップしたのに対し、数学Ⅱ・Ⅲが前年差マイナス一四・六ポイントダウンしました。また、理科においては十七年ぶりに得点調整が実施されました。全体の平均点も、文系では高め、理系では低めの傾向でした。

センター試験の影響からか、国立大学や私立大学センター方式入試を敬遠する傾向が見られましたが、難関大学においては前年並みの入試状況でした。また、文系の人気低下に歯止めがかかり、経済経営商学系や法学系が人気になりました。理系人気も落ち着きを見せ、理・薬学部での志願者減少が目立ちました。さらに、人気二六大学で全志願者の五割を占めるなど一部の大学に人気が集まりました。

【本校生（平成二十七年三月卒業生）の状況】

まず推薦入試では、指定校推薦で慶應義塾大学や東京理科大学など二十五名が合格、国立大学では筑波大学や群

馬大学など二十五名が合格しました。一月のセンター試験の平均点は、国語一二三・七点、数ⅠA六三・四点、数ⅡB三七・〇点、英語二一六・二点、世界史B六八・五点、日本史B六二・九点、地理B五五・一点、物理五五・七点、科学五三・二点、生物六〇・六点でした。続く一般入試では、前期で七十七名、中期で十名、工期で十三名、独立日程で三十名、合計で百五十五名が合格をしました。過去十年間で最多の結果です。また、秋田大学の医学部医学科や東北大学、大阪大学などの難関大学にも合格者がいました。

合格者が例年以上に増えた要因としては、前期中期独立日程での合格者が増加したことにあります。入試情報をよく調べ緻密な計画を立てるとともに、それに向けて努力を続けられたことによるものと思われる。また、医学部をはじめとした難関大学に合格した要因としては、本人の学習に対する努力が一番なのはもちろん、さらに出題傾向の分析や対策がしっかりと出来たことによるものと思われる。

【今後の展望】

二十八年入試は新課程入試の全面実施となります。また、政府主導の大学入試改革に先んじて、独自に入試改革を行う大学も増えています。

例えば、推薦入試や特色入試、外部英語試験の活用、多面的総合的な評価などです。また、学部学科の新設や改組が多く予定されています。例えば、教育学部のゼロ免課程廃止、地域創生系や国際系への改組新設、私立大学における看護学科の新設などです。大学はグローバル化への対応やキャンパスの都心への移転など、大きく変わっていくと思います。さらに、今発売に議論されている大学入試改革の動きから目が離せません。

各学年の現状

一学年概況

一学年主任 深谷 祐

入学してほぼ一年経過しました。一年生の多くは中学時代が遙か昔のように思えるのではないのでしょうか。学年の先生方はこの一年間、話し合いを重ねながら、多くの知恵を出し合い、一年生の成長を

援けてきました。

まず、入学後すぐのB H（ブリティッシュヒルズ）宿泊語学研修では、全英語の研修をこなし、日が浅いクラスの輪を大きくすることが課題でした。生徒はこれを難なく（苦労もしましたが）こなし、他言語でのコミュニケーションもどうにかなる！というひそかな自信さえ身につけて帰ってきました。次いで、部活動です。部活動の加入状況はどうかな？と心配しましたが、結果は多くの生徒が加入しています。きっと本校の伝統を受け継いでくれることと思います。二学期は企業訪問でした。生徒が多数の訪問先候補（企業）から行きたい企業を選び、交渉してアポを取り、当日は都内の交通機関を利用して時間通りに訪問するとうっかりハードルの高い内容でした。敬語を使う、電話をかける、アポを取るといっのは高校生にとっては難しいものですが、これも立派にクリアしました。生徒たちの感想文からはこうした困難を乗り越えたという喜びがひしひしと伝わってきます。三

学期は二月五日に行われた合唱コンクールです。なかば恒例となったこの行事の準備は昨年十一月末から始まりました。音楽の小林先生のご指導のもと、美術クラスを含めた全クラスが自由曲を選び、コーラスの編成を決め、クラス全体で練習を続けてきています。自分も集団も質の高い、良いものを創っていくこととする姿勢が強く印象づけられました。本校生の美点はこうした姿勢にあるといっても過言ではありません。

唯一の課題は学習です。家庭学習が足りません。塾で教わる、家庭教師に教わる、先生に教わる等々すべて学習のスタート若しくはきっかけに過ぎません。教わった事柄を自分のものにするためには一人で自分自身に向き合う自学自習が不可欠です。一番重要な自学自習が足りていないのです。

最後は苦言となってしまうましたが、二十八年度も二年生にご指導を賜りますようお願いいたします。

二学年概況

二学年主任 高野良則

この学年も入学から一年が

過ぎ、高校生としての生活にも慣れてきたようです。今年度は、文化祭の「七曜祭」もありましたが、十月、最大の行事修学旅行を行いました。

出発は、飛行機が初めてという生徒も多く、ドキドキのフライトでした。二時間半ほどの空の旅を終えると、まだまだ暑い沖縄の空気が我々を迎えてくれました。各クラス別平和学習で、平和ガイドの案内により、壕、資料館、平和記念館、米軍基地などをまわりました。資料館ではひめゆり学徒隊の悲惨さに強い衝撃を受けている生徒もいました。

二日目は渡嘉敷島へ渡りました。一時間ほど船に揺られ、美しい海と自然の渡嘉敷島へ到着。まぶしいくらい太陽の下、各々が希望のマリン体験をしました。シュノーケリング、グラス・ボート、釣り、また浜辺でのバナナボートなど思い思いの楽しみ方で沖縄の海を満喫できました。

三日目は名残惜しい民宿の方々に別れを告げ、本島に戻ってのタクシー別行動です。国際通りでのお土産・おいしいもの探索、美ら海水族

館など各班で計画したコースを巡り最後の宿、ホテルムービーチへ。夕食時サプライズの誕生日祝いで盛り上がり、友人達との旅行最後でもある晩を惜しみながら、最終四日目を迎えます。

最終日は、首里城でクラス集合写真を撮影。来たときよりも日焼けした笑顔で帰途につきました。天候だけがずっとと気がかりでしたが、この四日間は晴れ続きで良い修学旅行となりました。

この修学旅行も終わり学校行事が一段落した今(十二月)、現三年生は、受験に向けて最後の追い込みに入っています。この学年も、これからスムーズに受験生へ転換していけるよう指導していきたいと思えます。

三学年概況

三学年主任 岩澤昌人

高校生活も早いもので最終学年、生徒達は進路決定に向けて夢中に走り続けた一年だったのではないのでしょうか。

三年生の思い出といえば、まず最初に七曜祭があげられます。三年生の生徒達を中心となり、休日を上として作り

上げたオープニングの映像の素晴らしさに圧倒され、またクラスのパフォーマンズや催し物でも、生徒達の創意工夫、パワーに感動の二日間でした。

部活動においても三年間の集大成としてさまざまな部活動において、多くの生徒達の活躍が見られました。特に弓道部や水泳部の関東大会出場、剣道部・バドミントン部・陸上部・バレー部・サッカー部・女子バスケットボール部・柔道部などの県大会での活躍が印象にのこっています。文化部でも放送部の全国放送コンテスト出場をはじめ、写真部・美術部なども素晴らしい活躍をしました。また特別枠として松本君のアームレスリング世界選手権出場という快挙は記憶に新しい出来事でした。

そして今、大学入試の本番。生徒達は合格に向けて必死に頑張っていますし、学年関係の先生方も生徒達の指導に毎日遅くまで取り組んでくれていて本当に頭が下がる思いでいっぱいです。今はただ、三学年の全生徒が笑顔で巣立ってくれることを祈るばかりです。

最後に、今の段階(十二月

二十五日現在)の推薦入試などの進路結果をお知らせしたいと思います。

国公立大(十五名)

- 筑波大学(二名)
- 宇都宮大学(六名)
- 茨城大学(二名)
- 東京学芸大学(二名)
- 金沢大学(二名)
- 県立医療大学(三名)

私立大(二十九名)

○一般推薦

- 東京農業大学(二名)
- 明治薬科大学(二名)
- 白鷗大学(二名)
- 国際医療福祉大学(二名)

○AO入試

- 大妻女子大(二名)
- 江戸川大学(一名)
- 東海大学(一名)
- 立正大学(一名)

○指定校推薦

- 中央大学(四名)
- 明治学院大(三名)
- 日本大学(二名)
- 関東学院大学(二名)
- 共立女子大学(二名)
- 慶應義塾大学(一名)
- 国際医療福祉大学(二名)



- 埼玉工業大学(二名)
- 自治医科大学(一名)
- 成城大学(二名)
- 津田塾大学(一名)
- 東京家政大学(一名)
- 明治大学(二名)
- 明治薬科大学(二名)
- 立教大学(二名)
- その他の大学(二名)
- 防衛大学校(二名)
- 短期大学(一名)
- 立教女学院短大(二名)
- 専門学校(一名)
- 栃木県美容専門学校(二名)



主な大学合格者数

(主な国立大学)

大学名	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
東北	1	1	0	2	0
山形	5	5	3	8	2
福島	8	8	3	9	1
茨城	24	23	26	24	19
筑波	5	8	5	7	12
宇都宮	8	10	19	16	14
群馬	8	5	2	3	2
埼玉	5	9	11	9	4
千葉	0	3	7	4	1
東京	0	0	0	0	0
一橋	0	0	0	0	0
東京工業	0	0	0	0	0
東京外語	0	1	0	0	1
横浜国立	1	1	3	0	0
その他	14	7	4	9	10
国立大計	79	81	83	91	66

(主な私立大学)

(年度は入試年度です。)

大学名	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
国際医療福祉	4	12	7	11	7
獨協	10	8	10	5	12
文教	11	21	9	18	18
青山学院	1	3	4	7	6
大妻女子	22	2	4	14	0
北里	3	4	2	1	4
慶應	1	1	2	1	2
国際基督教	0	1	0	0	0
駒沢	8	13	13	6	10
芝浦工業	3	9	15	15	10
上智	1	0	0	0	1
専修	6	13	12	12	11
中央	21	7	7	22	5
津田塾	5	1	2	2	3
東京女子	18	4	3	4	1
東京薬科	1	0	0	0	2
東京理科	4	5	6	9	12
東洋	17	30	33	29	24
日本	27	27	23	21	22
日本女子	10	2	0	5	4
法政	2	6	12	7	13
東京都市	4	5	8	3	2
明治	4	3	6	17	10
明治学院	11	11	10	19	7
立教	1	1	1	38	4
早稲田	5	0	2	1	4
その他	364	347	305	365	234
私立大計	564	536	496	632	427

(主な公立大学)

大学名	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
高崎経済	16	13	8	4	0
県立医療	2	0	2	5	3
首都大東京	0	0	1	1	1
横浜国立	2	0	1	0	0
その他	56	21	14	23	18
公立大計	76	34	26	33	22

進路決定先人数

年度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就職	未定・他	卒業者数
27	102	138	0	7	2	18	267
26	104	147	2	9	2	12	276
25	93	149	0	4	3	25	275
24	106	130	4	13	2	18	273
23	77	159	3	6	1	27	273
22	88	133	0	4	1	52	278

2016年度大学入試センター試験平均点

科目	英語	リスニング	国語	数学ⅠA	数学ⅡB	世界史B	日本史B	地理B	現代社会
本校平均	118.2	32.9	132.6	55.1	43.7	63.8	68.5	57.3	60.8
全国平均	114.7	31.3	125.9	56.7	50.18	68.9	66.6	61.7	55.8

科目	倫理政経	物理	化学	生物	生物基礎	地学基礎
本校平均	63.1	48.8	50.2	75.1	30.2	37.3
全国平均	51.6	62.3	55.7	64.2	28.3	35.7

※ 全国平均は
中間発表のものです。

カナダ語学研修

カナダ研修に参加して

宮川 知子

私は、生きた英語や英語圏の文化に触れてみたいと思い、カナダ研修に参加しました。バンクーバーの美しい景色と素敵なホストファミリーに恵まれ、私は有意義な時間を過ごすことができました。

現地では、午前中は主に語学学校であるILSCで授業に参加しました。私が参加したボキャブラリー・コミュニケーション能力を高めるための授業では、英語でのコミュニケーション活動が活発に行われました。

最初は、会話が積極的に参加することが出来ず、担当の先生が私に

報 会 西 紫

「うなずいて黙っているだけでは、何も伝わらないよ。思っていることは、きちんと言葉にしなきゃ相手は分からないから、とにかく言葉にしなさい。」
と言ってくれました。大切な

のは、伝えようとする強い意思と、相手の話に耳を傾け、理解しようとする姿勢、そして、まちがいを恐れないこと。

これが、言葉の壁を乗り越えるのに重要なことだと私は思いました。

午後は、市内散策やカヤック体験、ブリティッシュコロニア大学訪問など、貴重な体験をすることが出来ました。バンクーバーの自然に恵まれた美しい景観が印象的でした。ホームステイ先では、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれました。一緒に外食をしたり、ショッピングをしたり、パーティーをしったりなど、楽しい時を過ごしました。

今回のカナダ研修を通して、私は大切なことを多く学びました。また、英語で会話することの楽しさや難しさも知りました。英語という言語から学べることはたくさんあります。伝えたいのに伝わらないもどかしさを知った今だからこそ、英語をもっと勉強したいと思いました。カナダ研修を通して学んだことや見聞きしたこと、これからの私の生活や学習に生かしていきたいと感じています。

学んだことの多さ

松本 称梨

カナダ研修を終えて、私は学んだ事の多さに驚きました。バンクーバー国際空港に着いた瞬間、「やっと着いた」という期待の気持ちと共に、これから始まるカナダ研修への不安がわいてきました。私は、一年生の坂人さんと一緒にホームステイをしました。

ホストファミリーの皆さんはとても親切でした。カナダの文化やマナー、買物の仕方や電車の乗り方、困ったときどんな行動をすればよいかなどたくさん事を私たちに教えてくれました。初日は、ホストファミリーに尋ねられたことに答えるだけで精一杯でした。しかし、ホストファミリーは、私の話を熱心に聞いてくれました。私も自然に話すのが楽しくなり、毎日のたくさんの会話は、私たちの日課になりました。

私たちは、毎日、公共交通機関を使い語学学校まで通いました。初日は、ホストファミリーと一緒に登校しました。初めての二人だけの登校の日、

私たちは駅構内で迷ってしまいました。私たちはホストファミリーに「困ったら、誰かに聞きなさい。」と言われていたので、迷わずに近くにいた人に話しかけました。その人は、外国人である私たちに笑顔で丁寧に教えてくれました。顔で丁寧なことを学びました。とても嬉しかったです。また、とても不思議に思いました。日本人の場合、この人のような行動をとることは難しいです。しかし、最終日のフィールドワークで答えがわかりました。私は、若い女性に「カナダの一番良いところは何かですか?」と尋ねました。その女性は、「カナダの人々です!」と答えました。私は理由を尋ねました。彼女は、「カナダには多くの民族が暮らしているから、私達には、『外国人だから』という意識はあまりないのです。また、カナダの人々はカナダが大好きだからです。」と答えました。

カナダで過ごした八日間、私は英語だけでなくこのような皆さんの事を学びました。今回得たこの貴重な経験は、これからの生活に必ず役立つものだと感じました。

カナダ研修に参加して

村松 彩瑛

今回のカナダ研修において、私は大きく分けて三つのことを学びました。一つは、言葉

や文化の違う地域で大切なこととは、伝えようとする気持ちだということです。事前の指導において、言葉が違う国で大切なのは自分の気持ちを伝えようとする気持ちだ、という先生の言葉が印象に残っていました。実際に海外へ行って改めて実感しました。

これほど言いたいことが言葉にならないものか、とても悔しく思いましたが、そんななかで自分の気持ちを少しでも多く相手に伝える努力が海外では必要だと感じました。確かに、正しい文法で正しい英語を話すことも重要ではあります。しかし、それよりも実際の生活では、少ない知識でも必要なことをわかりやすく伝えることが大切だと思いました。

二つ目は、文化の多様性です。現地の語学学校では、六カ国別々の出身の生徒と同じ教室で学びました。韓国、台湾などのアジアから南北アメリカ

今まで様々な国の人がいて、年齢も違ったため、たくさん文化に触れることが出来ました。お互いの国の文化について違いや似ている点を話し合えたことは、貴重な体験になりました。

三つ目は、何よりも大切なのは困ったときこそ積極的に行動し、そして笑顔を絶やさないことだということです。道に迷った、電車が分からない、そんな時は周りに自分から助けを求めれば、必ず誰かが助けてくれます。そして、助けてくれた人には感謝と笑顔を忘れないということ。どんなところに行こうとこれだけは忘れてはいけないと感じました。

どれも実際に経験してみなければ分からない、とても貴重な体験でした。また、困っている人を助けようという気持ちや、笑顔を向けられるとうれしい気持ちは、文化や言葉の違いなど関係ないと気付きました。言葉より、まず伝えたいという強い気持ち、困ったところにかく行動、そして笑

報 顔。この研修を通してたくさん
の大切なものを見つけたこ
とができました。

カナダ研修を振り返って

飛田 拓海

カナダ研修に行つて、一番
実感したことは自分の語彙力
のなさです。なぜなら、ホス
トマザーが自分に質問してい
たり、語学学校での授業中、
先生が話す時、その英文が聞
き取れたとしても単語の意味
が理解できず結果的に返事が
できなかったからです。オン
タンは受験勉強以外にも外国
での日常生活にも役立つとわ
かりました。

僕にとって海外でのホーム
ステイは初めてで緊張しまし
たが、ホームステイ先のホス
トファミリーはフレンドリー
でも親切でした。周りの
環境が全く違うものになった
ことによる不安も、ホストファ
ミリーの温かい歓迎もありあ
まり感じることはありません
でした。カナダでの生活では
たくさん英語を話し、最初あ
まり聞きとれなかったホスト
マザーの英語も最後のほうに
は、少しの会話ができるよう

にまで成長することができま
した。人間の適応能力ってす
ごいんです。

語学学校では、知ってる人
がなくて、不安でしたが色々
な人と話すことが出来て、貴
重な体験ができました。授業
はすべて英語で、高校で習っ
たことをやっているのに、す
ごく難しく感じました。語学
学校での授業は、高校の授業
とは全く違い、頭をフル活用
しなければならなかったけれ
ど、有意義な授業を受けること
ができました。語学学校のお
かげで、あまり好きではなかつ
た英語を好きになることがで
きました。

午後はアクティビティです。
カナダは自然豊かで、町並み
は古風な所や都会な所など様々
で道に生えているカエデの木
などきれいでした。アクティ
ビティで一番印象に残ったこ
とは、カヤックです。やる前
は、落ちるかもしれないと不安
でしたが、やってみると乗り
方は簡単で、周りの景色をじっ
くり見ながら楽しむことがで
きました。カヤック以外にも
シアコム高校の見学もしまし
た。カナダの学校は、夏休み
の期間になると、生徒も先生

も学校に行かなくなり、誰も
いない教室は不思議な感じで
した。

最後に、カナダでの生活は
日本では体験できないことを
体験できました。ホームステ
イや語学学校、アクティビティ
などまた体験したいです。将
来は、英語が話せる人になつ
て日本人とは違う考え方を持
つ国の人とたくさん話したい
です。

平成二十七年 職員異動

一 退職者

事務室長 富田哲夫
係長 佐藤純子
講師(国語) 藤江真理子
非常勤講師(理科) 福田良市
学校医 宮田信之

二 転入者

教諭(英語) 國府田一之
(土浦工高へ)
教諭(英語) 小倉 靖
(伊奈高校へ)
教諭(国語) 小林靖敏
(水海道二高へ)
教諭(数学) 中村聡明

教諭(数学) (下妻一高へ)
岡田新司

教諭(社会) (結城二高へ)
丸山聡一郎

教諭(理科) (土浦二高へ)
四家明彦

(マレーシア海外出張)

三 転入者

事務室長 植田幹夫

教諭(数学) (土浦工高より)
栗野尚子

教諭(数学) (下館工高より)
海老澤淳子

教諭(国語) (境高校より)
野村あかね

教諭(社会) (下妻二高より)
市村太一

教諭(英語) (岩井高校より)
マクアリスタ末次

教諭(英語) (新規採用)
岡本好和

主事 (下妻二高より)
堤美和子

講師(理科) (筑西土木より)
世木田和也

講師(国語) (下妻一高より)
小沼ちひろ

非常勤講師 (英語) 下条茂樹

非常勤講師 (情報) 渡邊理男

学校医 直江哲郎

部活動紹介

硬式野球部

私たち硬式野球部は、一年
生十四名、二年生十五名、マ
ネージャー三名の計三十二名
で、片岡先生、須藤先生、海
老澤先生のご指導のもと日々
の練習に励んでいます。今年
のチームは「当たり前を素晴
らしく」ということを掲げて
います。挨拶や返事といった
当たり前のことをしっかりや
る(こと)によって、隙のないチ
ームづくりをしています。今秋
は県大会ベスト十六で終わっ
てしまいましたが、春、夏の
大会では上位進出、そして甲
子園という夢舞台に立てるよ
うに全力を尽くしていきたい
と思います。



サッカー部

二年生十六名、一年生十七
名、マネージャー四名で、顧
問小島先生、副顧問山田先生
のご指導のもと、県大会上位
進出を目標に活動しています。
練習の中では一年生、二年生
という学年を気にせず全力で
取り組み、練習以外のところ
ではしっかりとした上下関係
があるメリハリのある部活で
す。毎日試合を想定して自分
の課題を見つけながら練習に



軟式野球部

私たち軟式野球部は、顧問
の市村先生、副顧問の栗野先

励んでいます。サッカーの経験の間わず、サッカーが好きで、やる気のある方の入部をお待ちしております。



弓道部

私たち弓道部は、部員二十二名で活動しています。創立四十一年の歴史を誇り、本年度は県大会入賞、関東大会出場などの成績を収めています。弓道は武道のひとつであり、部活動を通して所作、礼節から目上の人への心遣いまで多くのことを学ぶことができます。練習に関しては、部員同士が切磋琢磨し、顧問の指導を受け、充実しています。また、ほとんどの部員は初心者のため、基礎から丁寧に指導します。伝統ある弓道部で弓の道歩んでみませんか？見学はいつでも可能なので、興味のある方はぜひ一度弓道場にいらしてください。

ハンドボール部



私たちハンドボール部は、二年生十人、一年生七人、マネージャー三人の計二十一人で「県大会ベスト八」を目標に顧問の川上先生、外部コーチの前鬼氏の指導の下、日々の練習に全力で取り組んでいます。今年度は総体と新人戦で県大会出場を果たしました。部員たちは先輩後輩関係なく仲が良く、お互いを高め合いながら練習をしています。部員全員がハンドボールを高校から始めたので初心者でも大歓迎です。少しでも興味がある人は、是非練習を見に来てください。



男子バスケットボール部

私達男子バスケットボール部は、部員十九人、マネージャー二人の計二十一人で秋葉先生、菊池先生、廣瀬先生の指導のもと日々練習に励んでいます。「声を出すチーム」を目指し、声を出すことで辛い練習を皆で乗り越えています。バスケットボールは試合には五人しか出場できませんが、チーム全員で戦うことが大切なのでチームの繋がりを大事にしています。現在のチームにも初心者がいるように経験のない方でも十分試合で活躍できます。バスケットボールに興味のある方は一度、体育館に見学にいらしてください。



女子バスケットボール部

私達女子バスケットボール部は、二年生八人、一年生七人、マネージャー一人の計十六人で、廣瀬先生、秋葉先生、

菊池先生のご指導のもと練習に励んでいます。皆様にも元気があり、明るく活気のある部活です。ですが、練習ではメリハリをつけて一人一人がきちんと目的を持ち、お互いに切磋琢磨し合いながら着実に力をつけています。バスケットが好きで、興味のある方はぜひ体育館に足を運んでみて下さい。たくさんの方の入部をお待ちしています。



卓球部

私たち卓球部は、男子十二名、女子八名、顧問木村先生、小沼先生のご指導のもと、計二十二名で毎日練習に励んでいます。団体では県大会上位入賞を目標に活動しています。個人では毎年多くの人が地区大会上位、県大会出場という結果を残しています。また、休みと練習のメリハリがしっかりした部活なので、文武両

道の充実した高校生活を送ることが出来ます。興味のある方は、ぜひ旧体育館へ足を運んでください。初心者も経験者も大歓迎です。お待ちしております。



陸上部

私たち陸上競技部は選手が男子十三名、女子十一名、マネージャー四名の計二十七名で、顧問の鯨先生、副顧問の鈴木先生のもと練習に励んでいます。地区大会では男女とも総合で入賞するほど成績上位者が多く、県大会でも入賞する者もいます。男女の仲も良く楽しい部活ですが、練習は切磋琢磨し、メリハリをつけて活動しています。経験者はもちろんのこと、初心者で興味のある方も大歓迎です。多くの方の入部をお待ちしています。

ソフトテニス部



私たちソフトテニス部は、男子十名、女子十七名で顧問の寒河江先生、マクアリスト先生のご指導のもと活動しています。新人戦では男子二ペア、女子一ペアが県大会出場を果たしました。現在、目標である「団体戦県大会上位」を目指し、各自レベルアップをするため、日々の練習に励んでいます。また、男女ともに仲が良く、とても楽しい部活です。少しでもテニスに興味がある方は気軽にいらしてください。お待ちしております。



報 登 山 部

会 私たち登山部は、顧問の福井先生のもと部員四名で活動しています。主な活動は、皆で集まって登りたい山を決め、計画を立てて登ることです。

今年度は、六回ほど山に登りました。夏には標高二五七八メートルの日光白根山に登頂し、二泊三日のキャンプもしました。現在、一年生のみで活動しています。部員は皆、高校生から登山に興味を持った者ばかりです。登山、キャンプ、温泉に興味がある方は、軽い気持ちで、是非一度参加してみてください。



ボクシング部

私たちボクシング部は、二年生男子四名、一年生男子四名、一年生女子四名、計十一名で顧問の野澤先生と外部コーチの瀧田さんのご指導のもと日々の練習に励んでいます。ボクシングといえは少し怖い

イメージがあると思いますが、

高校ボクシングはプロとは違い、防具を付けるのでそんなに痛くありません。男子だけではなく、女子でもできるスポーツなのでぜひ一度旧体育館まで見学に来てみてください。マネージャーも募集しています。たくさんの人部をお待ちしています。



男子バレーボール部

僕たち男子バレーボール部は部員六名、マネージャー三名で、顧問酒寄先生、副顧問有年先生のご指導のもと、県大会ベスト八を目標に日々練習に励んでいます。他の部活よりもオファが多く、勉強と両立できます。しかし、限られた時間で部活をするので、短時間で集中してやります。短時間だけでなくできるようにするには、部員がまだ必要です。少しでもバレーボールに興味のある方、誰でも大歓迎ですので、ぜひ体育館に見

学に来てみてください。



女子バレーボール部

私達女子バレーボール部は、有年先生、酒寄先生のご指導のもと、選手九名、マネージャー一名の計十名で活動しています。チームの合言葉は「心」です。全員で心を一つにして支えてくれる人への感謝の心を忘れずにプレーしています。練習時間は限られていますが、試合などの実践で見つけた課題の克服を中心に、日々質の高い練習に励んでいます。初心者でも入りやすい部活なので、誰でもバレーに興味のある方は見学にいらしてください。



柔 道 部

柔道部は「精力善用」「自他共栄」の精神のもと、岡田実先生、菊地律省先生の教えを受け男子八名女子一名で活動しています。総体は、男子が県大会出場、女子は県大会で三位の結果でした。「柔よく剛を制す」とあるように体格は関係なく、小柄でも練習すれば大きな相手にも勝つことができます。日頃の練習で体は丈夫になり、黒帯も取れます。体を鍛えたいなあと思うている方！ぜひ、いらしてください。柔道部で新しい自分を見つけませんか？



剣 道 部

私たち剣道部は、男子九名、女子六名で顧問青木先生のご指導のもと日々稽古に励んでいます。今年は男女共にインターハイ予選ベスト八という結果でした。来年は、先輩達の成せなかった関東大会への

出場を目標に頑張っています。

剣道の技術はもちろん、礼儀も学ぶことが出来る部活です。剣道に興味のある方は経験者だけでなく、初心者も、格技場で練習していますので、気軽に見学・入部をお待ちしています。



ライフル射撃部

私たちライフル射撃部は一年生六人、二年生九人で顧問の深谷先生、坂入先生、外部コーチの多田さんのご指導のもと活動しています。下館一高射撃部OBにはオリンピックで活躍した先輩方がおり、私たちも高いレベルを目指して日々練習に励んでいます。現在活動している部員は全員初心者でしたが、前回のインターハイに出場し、入賞することが出来ました。高校から始めても高いレベルで競技することも目指せますので、興味のある方はぜひ見学に来て

ください。

バドミントン部

私達バドミントン部は、顧問の高野先生、大林先生、増渕先生のご指導のもと、練習に励んでいます。地区大会では高校から始めた選手も上位に賞し、県大会に出場しています。経験者はもちろん、少しでもバドミントンに興味のある方は、是非いらしてください。



硬式テニス部

私たち硬式テニス部は、二年生男子三名、女子二名、一年生男子五名、女子九名の計十九名で顧問の部先生、世木田先生のご指導のもと活動しています。練習出来る場所や時間は限られていますが、その中で自分たちで出来ることを見つけ工夫して日々練習に励んでいます。県西地区で優勝した先輩たちに続いて自分

たちも優勝をめざし、県大会でもベスト八を目標に全員が一丸となって頑張ります。経験がない方でも歓迎しているので入部お待ちしています。



水泳部

私たち水泳部は、部員二名、顧問柴山先生のご指導のもと活動しています。

通常は、各自、スイミングスクールに通って練習しています。

インターハイ出場を目標に練習し、今年度は関東大会に出場できました。

水泳は、日々の練習で確実にタイムが縮み成果のおがるスポーツです。水泳に興味の



ある方、やってみたい方は、ぜひ入部してください。お待ちしております。

空手道部

私たち空手道部は、顧問の久保田先生のご指導のもと三年生一名、一年生二名で県大会で勝つことを目標に、結城市の道場で日々活動しています。県西大会では、形の部準優勝、組手の部三位という成績を収めました。県大会では、勝てませんでした。ですので、目標は、県大会で勝つことです。この紹介文を見られて、空手道に興味をもった方、目に留まった方は、空手道部はどうですか。



茶華道部

私たち茶華道部は顧問の福田先生、外部顧問の飯塚先生のご指導のもと、二年生十六名、一年生五名で和やかに活動しています。活動は週に一日ですが、先輩後輩関係なく

仲が良く、終始穏やかな空気が流れています。また、交流会やお茶会などに参加する機会もあるのです。とてもよい刺激をつけることができます。茶道の経験がある方はもちろん、今までやったことがないという初心者の方でも大歓迎です。女子部員だけでなく男子部員もいます。是非一度、見学にいらしてください。



書道部

私たち書道部は二年生十名、一年生六名で活動しています。活動は各自で行い、日々書道展に出品する作品の作成に励んでいます。学校での活動が



ないため、兼部をしている部員がほとんどです。たくさんコンクールや書道展があるので参加しやすいと思います。たくさん入部をお待ちしています。

美術部

私たち美術部は菊地先生、関本先生のご指導のもと二年生三名、一年生五名の計八名で一人一人が画力の向上を目指してそれぞれの作品を制作しています。活動は、大体が個人作業のため自分のペースで活動することができます。基本はデッサン中心で、十月の作品展覧会や、文化祭に向けて、アクリル画を描いたりしています。美術部は絵を描くことが好きな人が集まった部活です。初心者の方でも大歓迎です。少しでも興味のある方はぜひ気軽に見学にいらしてください。お待ちしております。



生物部

私たち生物部は、石川先生、的場先生のご指導のもと、一年生四名で活動しています。主な活動としては、科学論文のコンクールに向け、相談して決めたテーマに沿って生物の実験・観察をします。今年度は、「サツマイモはなぜ、甘く美味しくなるのか」ということをテーマとし、定説を覆すべく研究をしています。また、夏休みには、東京理科大学と連携し、二日間にわたって遺伝子・タンパク質の実験を行いました。生物に限らず理科に興味のある方は、ぜひ気軽に生物室にいらしてください。



吹奏楽部

私達は小林先生をはじめとした五名の顧問の先生のご指導のもと、多くの方々からの支えに感謝しながら充実した毎日を過ごしています。学年

間、また学年を超えて部員同士の絆が深く笑顔が絶えない部活です。私たちの演奏を聴いてくださる方々の心に少しでも寄り添える演奏を目標に、コンクールや演奏会に向けて練習しています。今年度は新たに自分達の可能性を広げられるように、幅広い活動に挑戦しています。ぜひ私達と一緒に「吹奏楽」を楽しみませんか!? 初心者でも大々歓迎です! 興味がある方は音楽室へお越しください。



放送部

私たち放送部は、海老澤先生、粟野先生のご指導のもと、二年生七名、一年生七名の計十四名で活動しています。年に二回ある大会に向けて、ドラマ・ドキュメントの番組制作・個人でのアナウンス・朗読部門で全国大会を目指し、日々活動に励んでいます。今年度も、アナウンス・朗読部

報 西 紫

門で全国大会、関東大会に出場することができました。また、学校では、各行事や全校集会の機材準備を担当しています。アナウンス・朗読に興味のある方、編集や機材に興味のある方、なにか新しいことをはじめてみたいという方は大歓迎ですので、ぜひ一度放送室に見学に来て下さい。お待ちしております。



音楽部

人生全てうまくいくわけではない。そんな僕たちの行く手を阻むものたちへ爽やかに思いを叫ぶ。

Capacity broken(バンド名はそんなみなさんが言いたいけれど言えないことを音楽に乗せて届けます。

音楽部は、自分の気の合う仲間とバンドを組み思っ存分ロックンロールを鳴らす部活です。

練習はバンドごとですが、ライブではほかの部員やお客さんと音楽を通してコミュニケーションをとり、心が通いあいます。

経験者も未経験者も楽しめる部活なのでぜひぜひ見学に来て下さい！



ボランティア同好会

私たちは顧問の田崎先生のご指導のもと、二年生、一年生ともに四名の計八名で活動しています。校内でのエキキャップ回収や緑化活動、義援金・募金活動の他、校外での地域活動等のボランティアにも参加しています。今年度は、部員の数名が東日本大震災の被災地のボランティア活動にも参加しました。さて、これらの活動、特に校内における活動は、皆さんのご協力があったからこそ成立しているため、皆さんの善意に感謝しております。今後ともご協力よろしくお願いします。

お願いします。



ストリングオーケストラ部

私たちは顧問の青木久幸先生、外部顧問の先生方のご指導のもと活動しています。私たちは「つくばウェストシンフォニア」という楽団とともに活動し、定期演奏会やプロの演奏家の方々と共演などを行っています。昨年度はNHK交響楽団メンバーとの共演をしました。経験者はもちろん、二年生は全員初心者なので初心者でも大歓迎です！また、二年生が引退すると部員が二名となってしまうので、たくさんの方の部員を待っています。



す。是非、特別棟四階まで足を運んで下さい！

写真部

写真部は、顧問の石川先生のご指導の下二年生六名、一年生二名で活動しています。活動の中心は各個人による写真撮影で、作品は総文祭や県展の他、民間主催の写真展に出品しており、県下の高校の写真部で行われる撮影会にも参加しています。関東展へ出品された作品もあり、直近では、三作品が県展へ出品されました。また、校内での活動も行っており、文化祭や体育祭での記録写真の撮影、動画撮影を写真部が担当しています。今後も部員一同、各作品展入賞を目指し、積極的な活動を行っていきます。



チアリーディング

私たちはチアリーディング部は一年生七名、二年生八名の計十五名で活動しています。主に夏の硬式野球部の応援のため練習していますが、地域行事での活動や学校行事でのパフォーマンスも行っています。今年の目標は夏の野球大会で「応援大賞」を受賞し、試合を勝利へ導く力になることです。野球部はもちろん、その他の多くの方に元気を与えられるよう精一杯頑張りたいと思います。



応援団

私達応援団は男子八名女子五名の計十三名で顧問秋葉先生のもと練習に励んでいます。応援団は野球部の夏の大会での応援、壮行会での各部活への応援をします。練習は不定期なので勉強と両立できる同好会です。他の部活との兼部も可能です。男女共に多くの入会をお待ちしております。

生のもと練習に励んでいます。応援団は野球部の夏の大会での応援、壮行会での各部活への応援をします。練習は不定期なので勉強と両立できる同好会です。他の部活との兼部も可能です。男女共に多くの入会をお待ちしております。



平成二十七年 同窓会幹事

一組	森山 優雅
二組	谷澤 果林
三組	額賀 崇裕
四組	吉原 舞
五組	本松 由衣
六組	渡辺 創斗
七組	稲葉 有咲
八組	上倉 直大
九組	野原 紘奈子
十組	依田 健太郎
十一組	市村 健二
十二組	中村 那都美
十三組	中野 高介
十四組	湯澤 舞

編集委員

時田啓子 柴山佳美

大古悟 小沼ちひろ

仙波聡美

写真提供

鈴木写真館